

<参考資料>

1999年1月から7月までの東北地方の高温傾向

東北地方における月別の地域別平均気温偏差を見ると、東北全域(東北地方の気象官署16地点の観測データの平均)では1999年1月から7月にかけて「やや高い」状態が継続しています。東北地方の地域細分を見ても、東北北部で一時期「平年並」になったものの、東北全域と同様に「やや高い」状態が継続しています。

旬別の値では、東北全域で3月下旬から4月上旬にかけてと5月中旬に「やや低く」なっている他は「平年並」から「かなり高く」、高温傾向が継続しています。地域細分でも、「かなり低い」旬はなく、東北全域と同様の傾向を示しています。

東北全域の1999年1月から7月までの平均気温の平年差は+0.9でした。

東北地方地域別平均気温偏差(月別)

	東北全域	東北日本海側	東北太平洋側	東北北部	東北南部
1月	+0.7(+)	+0.7(+)	+0.7(0)	+0.6(0)	+0.9(+)
2月	+0.7(+)	+0.6(+)	+0.7(+)	+0.7(+)	+0.7(+)
3月	+1.0(+)	+1.1(+)	+1.0(+)	+0.5(0)	+1.5(++)
4月	+0.8(+)	+0.8(+)	+0.7(+)	+0.6(0)	+1.0(+)
5月	+0.8(+)	+0.4(0)	+1.0(+)	+0.6(+)	+1.0(+)
6月	+1.1(+)	+0.9(+)	+1.3(+)	+1.3(+)	+0.9(+)
7月	+1.2(+)	+1.3(+)	+1.1(+)	+1.3(++)	+1.0(+)

東北地方地域別平均気温偏差(旬別)

		東北全域	東北日本海側	東北太平洋側	東北北部	東北南部
1月	上旬	-1.1(0)	-1.2(-)	-1.0(0)	-1.4(-)	-0.7(0)
	中旬	+1.6(+)	+1.8(+)	+1.5(+)	+1.8(+)	+1.4(+)
	下旬	+1.6(++)	+1.4(+)	+1.7(++)	+1.3(+)	+1.9(++)
2月	上旬	+0.2(0)	-0.1(0)	+0.4(0)	-0.1(0)	+0.5(0)
	中旬	+0.8(0)	+0.8(0)	+0.8(0)	+1.0(0)	+0.5(0)
	下旬	+1.2(+)	+1.2(+)	+1.2(0)	+1.2(+)	+1.2(+)
3月	上旬	+1.9(+)	+1.9(+)	+1.9(+)	+1.3(+)	+2.5(++)
	中旬	+2.3(++)	+2.4(++)	+2.2(++)	+1.5(+)	+3.0(++)
	下旬	-1.0(-)	-0.9(-)	-1.1(-)	-1.2(-)	-0.8(-)
4月	上旬	-1.0(-)	-1.0(-)	-1.1(-)	-1.3(-)	-0.8(-)
	中旬	+2.5(++)	+2.5(++)	+2.5(++)	+2.4(++)	+2.7(++)
	下旬	+0.9(+)	+1.0(+)	+0.7(0)	+0.7(0)	+1.0(+)
5月	上旬	+1.0(+)	+0.4(0)	+1.3(+)	+0.5(0)	+1.4(+)
	中旬	-0.3(-)	-0.4(0)	-0.2(-)	-0.5(-)	-0.1(-)
	下旬	+1.6(+)	+1.1(+)	+1.9(++)	+1.6(+)	+1.6(+)
6月	上旬	+0.8(+)	+0.5(+)	+1.0(+)	+0.4(0)	+1.3(+)
	中旬	+1.9(+)	+1.6(+)	+2.0(+)	+2.8(++)	+1.0(+)
	下旬	+0.7(+)	+0.7(+)	+0.7(0)	+1.0(+)	+0.5(0)
7月	上旬	-0.7(0)	-0.7(0)	-0.7(0)	-0.8(0)	-0.6(0)
	中旬	+1.2(+)	+1.7(+)	+0.9(+)	+1.3(+)	+1.1(+)
	下旬	+2.8(++)	+2.6(++)	+3.0(++)	+3.2(++)	+2.4(++)

()内は階級 ++ :かなり高い + :やや高い 0 :平年並 - :やや低い -- :かなり低い

天気概況

1月の特徴: 前半冬型、後半周期変化

期間の前半は冬型の気圧配置となる日が多かった。このため、日本海側では曇りや雪の日、太平洋側では晴れの日が多かった。後半は低気圧、高気圧が交互に通過し、通過後は一時冬型の気圧配置になったが、長続きしなかった。

2月の特徴: 寒暖の変動が大きい

前半は冬型の気圧配置となる日が多かった。このため、日本海側では曇りや雪の日、太平洋側では晴れの日が多かった。後半は低気圧、高気圧が交互に通過し、通過後は一時冬型の気圧配置になったが、長続きしなかった。青森では降雪の深さの月合計が 377 cm となり、観測開始以来第 3 位となった。

3月の特徴: 低気圧による暴風、気温の変動が大きい

天気は数日の周期で変化した。低気圧が発達しながら通過した 5~6 日、15~16 日、21~22 日はまとまった雨や雪となり、各地で暴風となった。南部を中心に暖かい日が多かったが、低気圧の通過後は寒気が入り、気温の変動が大きかった。

4月の特徴: 気温の変動が大きい、下旬に太平洋側南部で大雨

天気は数日の周期で変化した。気温の変動が大きく、上旬は低気圧の通過後に寒気が入り、気温は低目に経過したが、中旬以降は寒気の南下も少なく、暖かい日が多かった。24~25 日は、動きの遅い低気圧の影響で太平洋側南部は大雨となり、所々で被害が発生した。

5月の特徴: 太平洋側を中心に高温が持続、北部の降水量はかなり多い

低気圧や高気圧が交互に通り、天気は短い周期で変化した。太平洋側を中心に暖かい日が多く、月平均気温の極値を更新した地点もあり、4 月中旬からの高温傾向が持続した。日照時間も全域で平年を上回った。上旬と下旬は発達した低気圧が北部を通過したため、北部の降水量は平年に比べかなり多かった。

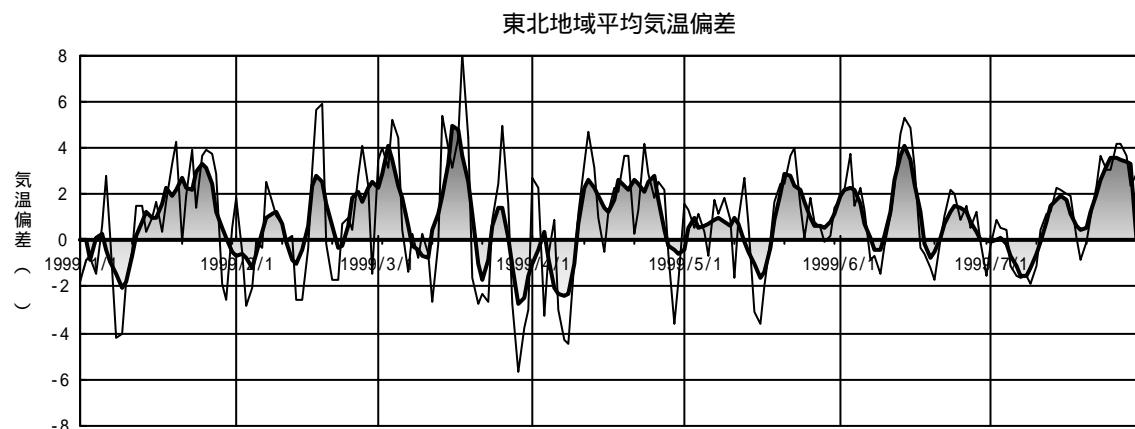
6月の特徴: 高温傾向が持続、月末に梅雨前線の活動が活発化し大雨

月の前半は、低気圧や高気圧が交互に通り、天気は周期的に変化した。月の後半は、南部を中心に梅雨前線の影響を受けることが多く、天気はぐずついた。特に、30 日には梅雨前線の活動が活発化したため、太平洋側を中心に大雨となり、各地で被害が発生した。

7月の特徴: 13~14 日に太平洋側で記録的な大雨、下旬は記録的な高温

上旬は一時的にオホーツク海高気圧の勢力が強まり、気温が低目に経過した時期があったが、中旬以降は日本の南海上を北上する弱い熱帯低気圧の影響でしばしば暖湿な空気が流入したり、太平洋高気圧の勢力が強まったたりしたため、高温に経過し、記録的な高温になる日もあった。月平均気温は東北平均でやや高く、1 月以来の月平均気温が高い状態が持続した。また、梅雨前線の活動が活発化した 13~14 日にかけては、太平洋側で記録的な大雨となった。

1999 年 1 月から 7 月までの東北地方の地域平均気温偏差の時系列図



図中、細線は日々の平均気温偏差、太線は 5 日移動平均の平均気温偏差です。